

経営比較分析表（令和6年度決算）

群馬県伊勢崎市 伊勢崎市民病院

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
条例全部	病院事業	一般病院	400床以上～500床未満	自治体職員
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	26	対象	ド透1未訓ガ	救臨が被災地輪
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	不採算地区中核病院	看護配置
212,084	47,720	非該当	非該当	7：1

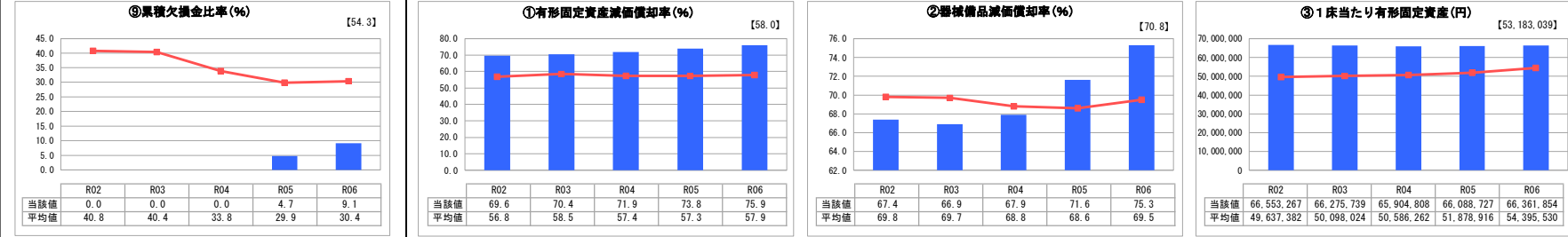
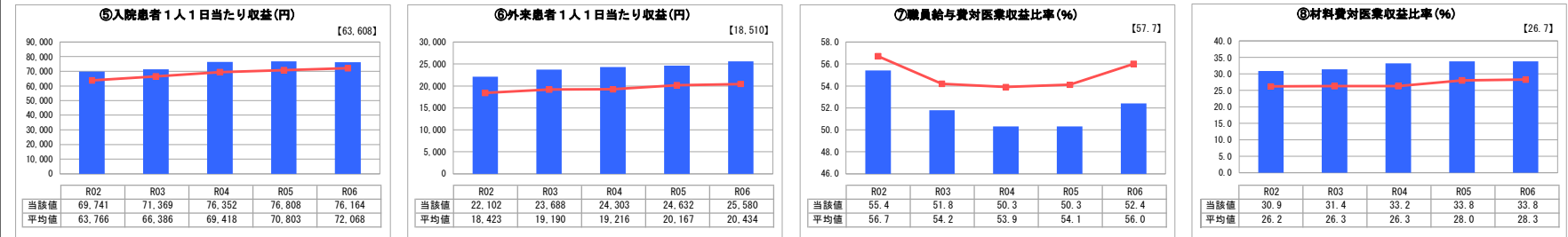
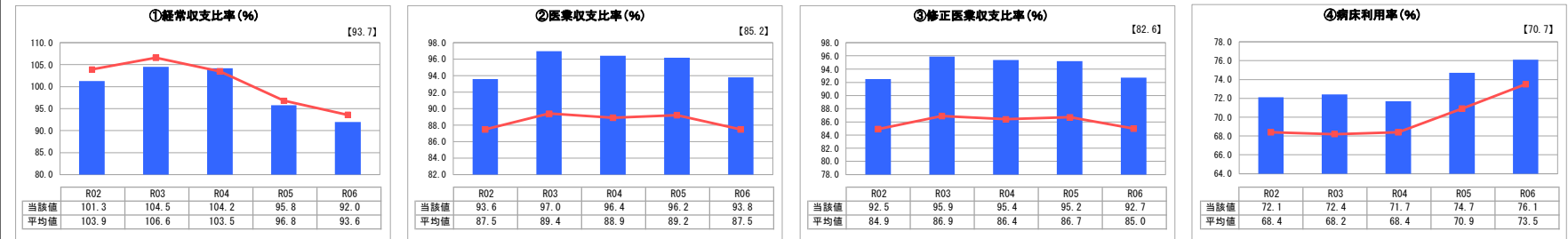
※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン（放射線）診療

※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 ヘ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（結核）
490	-	-
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
-	4	494
最大使用病床（一般）	最大使用病床（療養）	最大使用病床（一般＋療養）
392	-	392

■ 当該病院値（当該値）
— 類似病院平均値（平均値）
【】 令和6年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



※「1類似病院平均値(平均値)」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。

経営強化に係る主な取組（直近の実施時期）

機能分化・連携強化 (従来の業務・ネットワークを基に)	地方独立行政法人化	指定管理者制度導入
-	-	-
年度	年度	年度

I 地域において担っている役割

当病院は、伊勢崎保健医療圏において公立病院として災害拠点病院、地域がん診療連携拠点病院等の指定及び地域医療支援病院承認など地域医療の中核を担う総合病院であり、伊勢崎保健医療圏の二次救急を受け持つ急性期病院としての役割を担っています。

今後増加が見込まれる高齢者の救急患者への対応の充実を図ることが重要であり、救急を含めた入院から退院、退院後のケアまでの体制の充実と高度化する医療への対応にも配慮し、高度急性期及び急性期医療を中心とした事業を展開します。

また、小児・周産期医療を始め、がん医療、循環器疾患医療等に対して重点的に取り組むとともに、地域医療連携の推進、災害医療への取組を引き続き進めます。

II 分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

②③医療・修正医療収支比率はともに減少となりました。これは医療収益の増加に対し、医療費用の増加が上回ったことによるものです。医療収益については、④病床利用率が上昇しましたが、⑤入院患者1人1日当たり収益がわずかに減少となりました。

⑥外来患者1人1日当たり収益は増加しました。医療費用については、⑧材料費対医療収益比率に変動は見られませんでした。改定等による給与費の上昇により⑦職員給与費対医療収益比率が大きく増加となり、医療費用を大きく引き上げる要因となりました。この結果、①経常収支比率は昨年度に引き続き減少となるとともに、⑨累積欠損金比率も、平均値に比べ低値であるが、昨年よりも増加となりました。

2. 老朽化の状況について

高度化する医療への対応にも配慮した計画的な施設設備の充実・更新を継続することにより、診療水準と安全体制の向上に努めております。

建物については、令和2年度と令和3年度の2ヶ年で救急センター整備事業を実施いたしました。器械備品については、令和3年度に手術支援ロボット2台を整備し、令和5年度には人工心臓装置を更新しています。その後も継続的に医療器械の整備更新を実施しています。

今後の設備投資については将来負担を十分に考慮し、減価償却費や保有現金など総合的な検討を続け、高度で安全な医療を提供できるよう設備の整備を図ってまいります。

全体総括

安全で高度な医療を提供し続けることはもちろんのことですが、他の医療機関との連携により紹介患者を確保することや患者サービスに資する加算確保等により医療の質を向上させながら収益の増加を図っていきます。費用面については、医療の高度化により材料費が増加傾向にあるため、今後も一層の費用の削減に努めていきます。

また、設備や機器などの更新についても計画的におこない経営基盤の強化を図っていきます。

伊勢崎保健医療圏の二次救急を受け持つ一般急性期病院としての役割を継続的に果たすため、安定した経営に努めてまいります。